

外国人の人権

○ 国は違っても、みんな同じ地球人。

想像してください、あなたが一人で言葉が通じず地理も分からず外国を旅行するとしたら、どうしているのか分からずに困っているときに、やさしく声を掛けてくれたら、とてもうれしいと思いませんか。



外国から来た皆さんもそんな気持ちではないでしょうか。少々言葉は通じなくても、笑顔で接するだけで、きっとその人の支えになれるはず。国が違えば、習慣も文化も違って当たり前、日本国内だって県が違えば、言葉も文化も変わります。しかし、みんなが同じ地球人だということは替わりません。そんな気持ちを大切にしませんか。

○ 言葉や文化の違いをこえて、共に生きる社会へ。

● 外国人を取り巻くさまざまな壁

国際化社会も進み、日本で暮らす外国の方々が増えています。しかし、日本人社会で生活する外国人は、文化や言語、宗教、習慣が異なるために、就職や職場で不利な扱いを受けたり、アパートなどへの入居が困難だったりといった偏見や差別を受けることがあります。また、日本語が理解できないために、日常生活や災害時などに困る人もいます。

● 真の国際化社会を目指して

私たち日本人も、海外に出たら外国人です。他国の文化や生活習慣の違いなどを理解し、外国人も同じ市民として生活できる環境づくりに取り組む必要があります。民族、文化、国籍などの違いを越えて、外国人と私たちがお互いに人権を尊重



し支え合う社会を目指しましょう。

○ 一緒に考えよう、外国人の人権

● 同じ外国人なのに態度を変える

欧米の外国人とアジア、アフリカの外国人とで接し方が異なる日本人がいます。国籍や肌の色で偏見を持っていないか、改めて自分自身に問いかけてみてはいかがでしょうか。

● 日本の習慣を押し付ける

例えば、食事一つとっても、日本ではご飯茶碗を持つことが礼儀正しいこととなっていますが、お隣の韓国では、ご飯茶碗は持たないことがマナーです。また、東南アジアなどの国では、お箸やフォークを持たずに手で食べる場所もあります。生まれ育った国が違えば、習慣や文化は違って当たり前。異文化を寛容に受け止め、相違を認めあうことが必要です。

● 在日韓国・朝鮮人の人権侵害

歴史的経緯により、日本に住むようになった多くの韓国・朝鮮人の人たちがいます。この人々とその子孫は「在日韓国・朝鮮人」と呼ばれ、嫌がらせを受けるなど、人権を侵害される問題も起きています。

また、近年国内での「ヘイトスピーチ」(憎悪発言)により、在日韓国の方がバスの中で母国語を話せない、被害で営業をしていた店舗を売却した、激しい言葉に子ども達が傷ついているなど実際に被害が出ていることも事実です。

